

「新城行道の墓碑」について

| | | | | |
|--------------|---------------|----------|----------|----------|
| 整理番号 与野一〇 | 題額 新城行動君之墓 | 題額揮毫 | 碑記撰文 | 碑記揮毫 |
|--------------|---------------|----------|----------|----------|

| | | | | |
|--------|-------------------|-----------|-----------|----|
| 鐫刻 | 撰文建碑年 一八四五・弘化二 | 住所 本町西 | 場所 円乗院 | 備考 |
|--------|-------------------|-----------|-----------|----|

一. はじめに

本碑は、江戸時代末期、与野において書道塾を開き、童子の教育にあたった風流の人、新城行動の墓碑である。

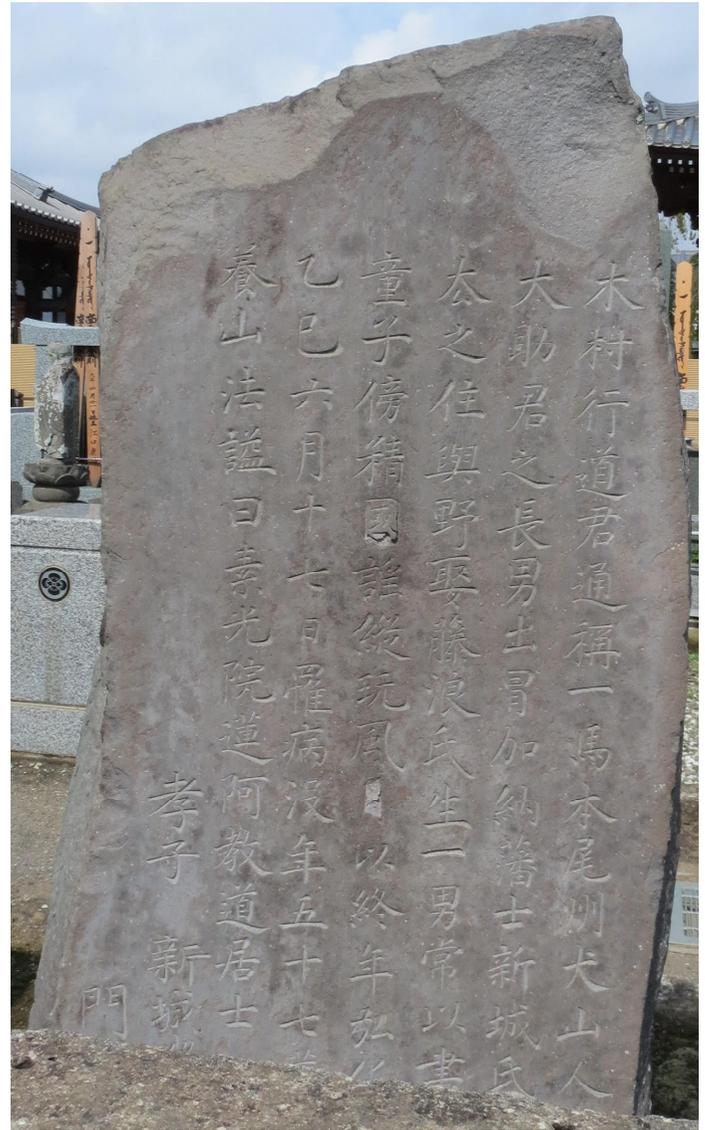
○写真1 石碑正面



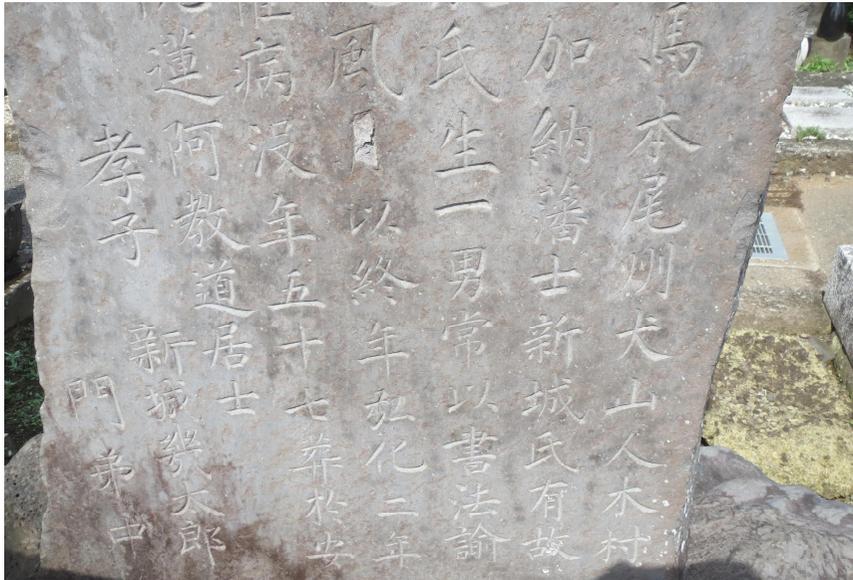
○写真2 題額



○写真3 石碑背面(上部)



○写真4 石碑背面(下部)



二 翻刻並に訳注

■ 翻刻

(正面)

◎ 題額 (隸書体)

新城行道君之墓

◎ 碑記

木村行道君通稱一馬本尾州犬山人木村大助君之長男出冒加納藩士新城氏有故忝之住與野娶藤浪氏生一男常以書法諭童子傍精國語縱玩風月以終年弘化二年乙巳六月十七日罹病没年五十七葬於安養山法諡曰素光院蓮阿教導居士

孝子 新城幾太郎

門弟中

* 異体字等

○ 忝 去。 ○ 幾 幾。

■ 訳注

● 本文 (いわゆる旧字体とし、一行毎に改行した)

◎ 題額

新城行動君之墓

◎ 碑記

木村行道君、通稱一馬。

本尾州犬山人、木村大助君之長男。

出冒加納藩士新城氏。

有故去之、住與野。

娶藤浪氏、生一男。

常以書法諭童子、傍精國語、縱玩風月以終年。

弘化二年乙巳六月十七日、罹病没。年五十七。

葬於安養山。法諡曰素光院蓮阿教導居士。

孝子新城幾太郎、門弟中。

● 訓訳

木村行道君は、通稱一馬なり。

本と尾州犬山の人、木村大助君の長男なり。
出でて加納藩主土新城氏を冒す。
故有りて之を去り、與野に住む。
藤浪氏を娶りて、一男を生む。

常に書法を以て童子に諭え、傍ら國謡に精す。
縦ほししいままに風月を玩もてあそび以て年を終ふ。

弘化二年乙巳六月十七日、病に罹りて没す。年五十七なり。

安養山に葬らる。法諡を素光院蓮阿教導居士と曰ふ。

孝子新城幾太郎、門弟中。

●人物

○木村大助 不詳。

○新城幾太郎 行動の一人息子。それ以外は不詳。

●注

○尾州 尾張国。

○犬山 現犬山市。尾張国（愛知県）の最北端で美濃国（岐阜県）と接する。交通の要衝で、小牧長久手の戦いでは羽柴秀吉が拠点とした。江戸時代には犬山城が築かれ、尾張藩の家臣が代々城主をつとめ、「二国一城令」の例外のひとつであった。

○冒 他家の姓を名乗ること、養子になること。

○加納藩 美濃国加納（現岐阜市加納）を本拠地として美濃国中部を領土とした藩。行動の生きた時代は、藩主は永井氏。

○國謡 和歌や俳句のことか。

○風月 風月は明月と清風で、美しい自然。

○終年 一生涯。

○弘化二年 西暦一八四五年。この年五十七歳なので、行動の生年は、文政二（一八一九）年。

○安養山 与野の円乗院の山号。

○門弟中 中は仲間内。連中などと同じ。門弟中で、門弟一同。

●口語訳

【行動君の出自】

木村行道君は、通称を一馬と言った。

元は、尾張犬山の人で、木村大助君の長男であった。

【新城家への養子縁組と離縁、与野来住】

それが、木村家を出て、加納藩の藩士である新城家の養子となった。

ところが分けがあって新城家を去り、与野に移り住んだ。

【家族と与野での生活】

行動君は与野で藤浪氏を娶り、一男を生んだ。

書道塾を開き、子どもに書を教えるのを常としていたが、その傍ら和歌や俳句といった日本の歌謡にも精通していた。

思うがままに花鳥風月を觀賞して愛で、そのことを生涯通したのだった。

【逝去と埋葬】

弘化二年乙巳の歳の六月十七日、病に罹つて亡くなった。享年五十七歳であった。与野の円乗院の墓域に葬られた。戒名を、「素光院蓮阿教導居士」と言った。

【記事】

孝子である新城幾太郎、及び門弟一同が建てた。

三. 資料

(一) 「新編武蔵風土記稿」(文政十三(一八三〇)年) 卷一五五 足立郡之二一與野領

◎與野町・寺院

○圓乗院

「新義真言宗、京都仁和寺末、安養山西念寺と號す、寺領十五石の御朱印は慶長一九年に附せらる、當寺は畠山重忠の草創にして、古は近郷道場村にありしが、何の頃にや當所に移せりと云、彼道場の村名も當院にありしより起こりしなど、語り傳へり、重忠のことは道場村金剛寺の條に出たれば併せ見るべし、本尊不動を安ず、中興の僧を賢明と云、元和五年十月十二日示寂せり」

*鐘樓

「鐘銘に重忠の草創せしことをほぼ記したれど、證とすべきことなければ略せり」

↓この梵鐘は昭和十七年に戦争のために供出。今の梵鐘は、同三十四年の鑄造。

(二) 「武蔵国郡村誌」(明治十五(一八八二)年) 卷之十

◎與野町・仏寺

○圓乗院

「縦九十七間横四十一間面積千四百五十七坪町の南方にあり新義真言宗仁和寺の末なり(以下「風土記稿」)」

四. 主な参考資料

①翻刻

・『埼玉県教育史金石史料』上、一九六八年。

・『与野市史 中・近世史料編』一九八三年。

②論文など

・丹治健蔵『円乗院《与野》(さきたま文庫十六)』さきたま出版会、一九九〇年

以上

二〇二五年二月 薄井俊二訳す